

☆(B)パターン 記入例

氏名	福島 太郎	作成開始日	平成 27 年 5 月 25 日
担任	1 年	2 年	3 年
	4 年 A 教諭	5 年 B 教諭	6 年 C 教諭
障がい名等	ADHD (コンサータ服用)		
諸検査等の記録	実施学年	検査日	結果等
	3 年	×月×日	WISCIV×× (〇〇病院)
	5 年		WISCIV×× (〇〇病院)
	年		

●本人及び保護者の意向や将来の希望、配慮等の申し出

*アンケートによる。

●本人の抱えている学習上又は生活上の困難さ

①見えにくさ ②聞こえにくさ ③道具の操作の困難さ ④移動上の制約
⑤健康面や安全面での制約 ⑥発音のしにくさ ⑦心理的な不安定
⑧人間関係形成の困難さ ⑨読み書きや計算等の困難さ
⑩注意の集中を持続することの困難さ
 (他) 記憶することの苦手さ 自由に表現していく困難さ
 その他
 ○一斉指示の時に、伝わりにくいことがある。個別に伝えれば、伝わる。注意の集中を持続することが難しいため、指示を聞き逃している可能性がある。

(支援目標設定の理由)

書字の困難さや不注意による失敗等の経験から、精神的な不安定につながり、その後の学習等が続けられないことが考えられる。本人は学習をもっと理解したい、高校に行きたいという思いがある。保護者は、心理的に安定して学習、進学、就職へと将来の願いがある。このようなことを踏まえ、学校、家庭、各連携機関等において、実際に以下のような支援が必要であると考えた。

支援目標 (◎支援 ○指導)

- ◎書きの困難さへの支援 ◎集中しやすい環境 ◎精神的に不安定になった時の支援
 ○書字以外の記録できる技術を獲得 ○低学年程度の読み書き ○イライラした場面での対応

●各連携機関の支援内容等の継続状況

機関名	学年 (いつから～いつまで)	各連携機関の支援内容等
〇〇クラブ (学童)	小1～	・宿題の見守り。 ・精神的に不安定になった時のリラックスができるスペースを設ける。
××病院	小3～	・薬の効果や服薬のきまりを伝える。 ・本人にとって必要な合理的配慮について相談。

～支援内容・方法（個別に必要とする合理的配慮等）～

教育内容 ・ 方法	支援開始 学年～	学習・生活上の支援内容 及び 必要な変更調整
	小4～ 小5～	<p>板書をノートに写す量を軽減する。 一部変更→本人への板書内容の量を調整し、授業後、デジタルカメラで撮影し、ファイル化して学習を保障する。</p>
	小4～	<p>・単元テスト等に関しては、別室で、口頭による代替え筆記によるテストを行う。</p>
	小4～	<p>・障がいから生じる困難さを改善、克服する指導として通級指導教室を利用する。詳しくは個別の指導計画へ。</p>
支援 体制	支援開始 学年～	必要な連携（校長、教頭、担任、養護教諭、SC、SSW、医療機関他）
	小4～	<p>・通級指導教室と連携した支援、指導。</p>
	小4～5 小6～	<p>・定期的（月2回）にSCとの個別懇談を実施。 変更→本人から、SCとの相談をしなくても大丈夫とのこと。本人が必要な時のみSCに相談できるようにする。</p>
施設 設備	支援開始 学年～	必要な環境設定（学校、教室等）
	小4～5	<p>・精神的に不安定になった時のクールダウンスペースを確保する。 終了→通級指導によって、教室内でも感情をコントロールしながら、安定して学習に取り組めるようになり、クールダウンスペースが必要なくなった。</p>
	小4～	<p>・注意がそれやすいことから、座席位置、掲示物等に配慮する必要がある。</p>

以上の内容を確認しました。

●児童生徒・保護者確認欄

年月日	氏名	保護者名	年月日	氏名	保護者名
27.5	福島太郎	福島××			
28.4	いしくしまたろう	福島××			
29.4	いしくしまたろう	福島××			

なお、障がいによる学習上又は生活上の困難さの状況等の変化に応じて、年度途中でも柔軟に見直すことがあります。